令和２年度第３回富山県環境審議会
廃棄物専門部会議事概要

１．日　時　　令和３年３月 18 日（木）14 時～15 時 15 分

２．場　所　　富山県民会館 302 号室

３．出席者　　委　員：加賀谷専門部会長（富山大学学術研究部工学系教授）、
髙橋委員（富山国際大学現代社会学部准教授）、
竹内委員（富山大学名誉教授）、
長崎専門員（富山県市町村一般廃棄物対策推進協議会長、富山市環境部環境センター次長・管理課長）、
中田専門員（富山県経営者協会環境委員会副委員長、北陸電力株式会社環境部長）、
前原専門員（一般社団法人富山県産業資源循環協会専務理事）

事務局：横井生活環境文化部次長、鷲本環境政策課長、中山廃棄物対策班長ほか

４．議　事

⑴　富山県廃棄物処理計画の改定案について

事務局が資料１、資料２－１、資料２－２に基づき、県民への意見募集等の結果及び富山県廃棄物処理計画の改定案について説明した後、質疑応答が行われた。

計画改定案は、一部修正のうえ、富山県環境審議会に報告することとなった。

⑵　今後の進め方について

事務局が資料３に基づき、今後の改定スケジュールについて説明した。

⑶　その他（情報提供）

事務局が参考資料に基づき、富山県海岸漂着物対策推進地域計画の改定案、環境施策の推進（令和３年度予算案）について説明した。

５．主な意見・質疑応答

⑴　富山県廃棄物処理計画の改定案について

（委員等）

今ほど紹介されたパブリックコメントの中には、もう少し意欲的にすべきとの意見もあったが、今までの経緯や、コロナの状況のことを考えると、現在の計画案は妥当かなと思う。

（委員等）

パブリックコメントでは、たくさんの意見をいただいて、それに対して適切に対応していただいたと感じている。

一方で、いろいろな新しい概念、ストックマネジメントとか、サーキュラーエコノミーとか、そういうことを積極的にというような意見もあるが、もう少し状況を見極

めながら、計画に盛り込んでいく必要があるのではないか。次の計画にどう盛り込めるのかというのを、常に意識しながら、動向を調査しながら対応していったほうがよいと思う。

コロナ対応については、ビヨンドではなく、まだウィズの状況で、アフターにもなっていない。この現状をいろいろと工夫し、対策を立てながら進んでいく中で、次のビヨンドに向けて、計画にどう反映させていくのか、次の課題だと感じている。

（委員等）

計画概要のプラスチックの資源循環の推進の中に、「国の制度（検討中）と連携した徹底的な資源循環の推進」との記載があり、これに関連して、今月、プラスチックの新しい規制に係る法律が閣議決定され、年内には公布されて施行される。

各事業者にも削減率やリサイクルの目標を掲げて取り組む義務が課されると理解しているが、これは５年間の中で当然実行される法律改正だが、現時点でどういった方向性で考えているのか。

（事務局）

３月９日に、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案」が閣議決定され、同日に国会にも提出されている。今国会で審議中であり、具体的な制度設計が、今後、国の規則や通知で示される。

法律自体は来年度から施行の見込みであり、計画の表現については、２年後、３年後に読んだときに古い記載になることも考えられるので、表現について検討したい。

（委員等）

法律が成立して施行された後に、具体的な内容が決まるが、この部分の表現については、事務局の方で少し表現を工夫し、適切に修正していただきたい。

⑶ その他

（委員等）

環境教育では、海岸の様子を実際に見るというのは重要だし、ごみの清掃活動なども重要である。

コロナの状況下で、なかなか野外に行くのは難しく、中止になっていると聞いているが、特に、子供たちに対する機会を提供するため、例えば、富山高専の船とか、水産研究所の船とかを活用し、子供たちの体験乗船などはできないか。また、海岸に実際に行って漂着物を拾うということも含めて、検討していただきたい。

あと、予算額の大きな伏木富山港公害防止対策事業について教えていただきたい。

（事務局）

県では、従来からバスツアーの事業を行っており、例えば、川の上流の子供たちがいろいろな川の水の施設を巡りながら、下流に行って、最後に海で海岸清掃を行うイベントがある。今年度はコロナの関係で実施できなかったが、来年度はなんとか実施したいと考えている。

伏木富山港公害防止対策事業については、担当課が異なるが、富岩運河のダイオキシン類対策関係の予算である。

（委員等）

イベントの実施は、特に子供たちを相手にする場合、なかなか難しい面があると思うが、感染防止対策をしっかりと行いながら、積極的に活動を展開していただきたい。

（委員等）

海岸漂着物の効果的な発生抑制の推進について、上流域を含めた幅広い地域で行うことが重要である。プラスチックの漂着ごみを見ると、結構農業で発生していると思われるものが多いが、農業関係者による流出を防止する取組みが大事だと思うがどうか。

（事務局）

ご指摘のとおり、農業関係のプラスチックや肥料カプセルなどが流出しており、その対策として、改良された肥料の使用や、農業関係者向けの啓発などが行われている。

今年度から、マイクロプラスチックの流出・漂流実態を調査しているが、マイクロプラスチックの中では、農業関係の被覆肥料のカプセルが多い。

肥料カプセルについては、実際の水田からどれくらいの割合が流出するのかといった調査や、いろいろな技術開発が行われ、環境に負荷を与えないように、農協関係を通じて農家にも情報提供されている。

（委員等）

地球温暖化対策について、全国の自治体でカーボンニュートラルに向けた脱炭素のロードマップを作成すると聞いているが、県の所管はどの部署で担当するのか。

（事務局）

来年度以降、新しく知事政策局の中にカーボンニュートラル推進課ができる。ゼロカーボンやカーボンニュートラルに関してはその課が中心となり、各課がやっていることを合わせて、全庁挙げて取り組んでいくことになる。

（委員等）

昨年、環境科学センターの「エコ・ラボとやま」を見学し、施設を案内していただいた。非常に面白い取組みであり、児童クラブで見学できないか相談したところ、ちょうどコロナで大変な時期に重なり、なかなか積極的に受け入れできないとのことであった。現在はどのような状況なのか。

（事務局）

「エコ・ラボとやま」は、既存の建物を改築して展示や体験ができる施設であり、スペースは少し狭いが、空調関係も整備して換気を行っている。冬場は来所される方が少なかったが、これからの暖かい時期には、小学生や子供たちに楽しく学んでもらえればと考えている。